

報告事項イ

学力向上に関する取組状況について（第1回、第2回PT会議報告）

学力向上に関する取組状況について、別紙のとおり報告します。

平成30年10月31日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

## 学力向上に関する取組状況について（第1回、第2回PT会議報告）

平成30年10月31日

小 中 学 校 課

- 1 目的 鳥取県の学力向上対策をより一層推進していくために本PTを設置し、対策の方向性、具体的な取組について協議、検討を行う。

### 2 委員

所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考	第1回	第2回
兵庫教育大学大学院教授	浅野 良一	外部アドバイザー		
国立教育政策研究所 総括研究官	千々布 敏弥	外部アドバイザー		
日南町長	増原 聡	町村長		
進路指導塾ドリームラーナーズ	石原 太一	総合教育会議 有識者		
鳥取市立東中学校長	田村 穰	鳥取県中学校長会		(代)
鳥取市立湖山西小学校長	大西 泰博	鳥取県小学校長会	(代)	
米子市教育委員会教育長	浦林 実	都市教育長会		
北栄町教育委員会教育長	別本 勝美	町村教育長会		
県教育委員会事務局教育次長	足羽 英樹			
〃 参事監兼教育センター所長	小林 傳			

### 3 第1回プロジェクトチーム会議について（9月21日）

各教科や児童生徒質問紙の結果等から明らかとなった課題を説明するとともに、今後の取組の方向性を提案し、委員から意見を伺った。

#### (1) 意見を伺った今後の取組の方向性

管理職・教員の意識改革、授業改善について  
 児童生徒の学習意欲の向上、家庭学習の質の向上について  
 教員の同僚性の構築、若手教員の育成について  
 教育委員会の指導体制の見直しと強化について

#### (2) 主な意見

- ・成績が徐々に下がっているというのは危機感が共有されにくいので、危機感の共有が大切になる。
- ・よい授業をすることなど、学校がすべきことは学校でやるべきと考えている。核となる教員を育てていくことが必要である。
- ・学級の「荒れ」をなくすことに重点を置くべきと思う。クラス全体が落ち着いて学習に向かうことができる状態を作る必要がある。
- ・家庭環境が厳しい子どももいるため、PTA団体との連携方策についても考えてはどうか。
- ・「がんばるといいことがある」ということを共有して進めたい。何でもいいので、一つのことを徹底してやりきらせるようにしたい。小さい成果を早く出すということが大切である。
- ・算数は論理的な教科なので、普段から授業以外でも合理的に説明したり、理解させたりすることも重要である。
- ・校長のリーダーシップが非常に大切と考えている。分かりやすい目標を示して、目に見える成果が出る短期目標を示すことが大事。鳥取県としての最重要課題を絞って、全体で取り組むことが重要である。

#### (3) 意見のまとめ

- ・本調査結果の状況についての危機感を、管理職はもちろん、一人ひとりの教員レベルまで共有することが必要である。
- ・授業改善、学級経営の課題を解消していくための対策を、効果性・効率性を重視して絞り込むことが重要。短期、中長期的なスパンを考えた対策の検討が必要である。
- ・この機会を教員の意識改革、授業改革を通して、子どもたちにとっての成果につなげるチャンスと捉えていく。

#### 4 第2回プロジェクトチーム会議について(10月26日)

外部アドバイザーから、学力上位県(福井、秋田)の取組について紹介いただくとともに、今後実施する対策案を提示し、意見を伺った。

##### (1) 学力上位県の取組をふまえた鳥取県への提案について(国立教育政策研究所 千々布総括研究官より)

- ・全国学力・学習状況調査結果を分析すると、小学校と中学校では学力の伸ばし方に違いがあるという仮説が立つ。
- ・福井や秋田は学校ごとの平均点のばらつきが少ない。学校内で教育目標が共有されている、教職員の同僚性が高い等、学校文化が良好で、校長のリーダーシップも高い状況がある。
- ・以上のことから学力向上策は、2点に絞られる。  
学校経営を通じた学校文化の向上      主体的・対話的で深い学びの実現
- ・小学校においては秋田型授業(めあての提示、振り返り、ノート指導、話し合い)の徹底により成果が期待できる。4項目の重要性を共有して取組を進めるのがよい。
- ・学校経営の水準が高い県は、学力が高い。学校経営の水準を高めるため、学力上位県では、目標の絞り込みを行うとともに、校長のリーダーシップを育てるため学校訪問等を工夫している。教育委員会として学校経営を指導する体制をつくることが重要である。

##### (2) 短期的・中長期的取組についての主な意見

- ・学校経営において、学校側が自分たちの状況を判断することが重要であるが、客観的に判断することが難しいので、県や市町村がチェック機能を果たしていくことも重要である。
- ・学校経営をベースにした授業改革、意識改革でなければいけない。
- ・学校だけでなく企業も同様である。業務の習熟と組織人としての成熟、両方を育てるようにしていかないといけない。
- ・各地域で取組を進めているが、スピード感はどうか。ここで議論していることは他県でも同じように議論していると思う。例えば、クラブ活動として学習クラブをつくって取り組むとか思い切った改革ができないか。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、先生方が新学習指導要領を読み込むなどして内容をよく理解し説明できるようになっておく必要がある。
- ・短期的な取組については、これで成果が上がるかという議論がもっと必要なのではないか。家庭や教育団体と連携しながら取組を進めることも大切だが、まずは県として何に取り組むかが重要である。
- ・すでに鳥取県では様々な取組が行われているが、重点事項を絞り込んでシンプルにしていく必要がある。
- ・長期的というからには、小学校入学前の6年間も含めて取組を検討してもよいのではないか。
- ・PT会議のような大きな会で具体を論じるのは難しい。WGを設置して、より具体的な取組を考える事も必要なのではないか。
- ・来年の4月に何らかの変化を及ぼすために何をするのかを考えてアクションを起こす必要がある。スピード感が大切である。これだけはやると決めて、しつこくやることが重要である。

#### 5 今後の予定

##### 第3回学力向上推進プロジェクトチーム会議(12月末～1月上旬に開催予定)

短期的取組の進捗を確認するとともに、次年度に向けた学力向上推進プランについて意見を伺う予定。

次年度以降も引き続きPT会議を開催し、学力向上対策の進捗の確認、戦略的・中長期的視点からの取組検討を行う予定。